

第5回「プルトニウム混合燃料に関する懇談会」における 県民意見聴取の意見要旨(意見発表者以外の応募者)

NO	意見区分		意見要旨
	賛成 容認	反対 慎重	
11			<ol style="list-style-type: none"> 1. 節電の努力 制御能力に問題のあるMOX燃料を使用して、財政状態の苦しい一部地方、地域に大きな危険を負わせる一方で、大量の電力を消費し、節電に努めない個人、企業、行政機関がある。 まずは、省エネルギーの意識を高め、その実行をするよう強く働きかけるべきではないか。 2. 多様な自然エネルギーの開発、導入 風力発電、太陽光発電など、まずは制度の整備を急ぎ、その積極的な導入により多様なエネルギー供給源を確保すべきである。 安易に、一部の利権に振り回されずに多様性を取り入れることで、様々な経済的メリットも生じるはずである。 3. 原子力マネーへの依存体質を改善 2とも関連する。チェルノブイリ事故のような惨事が起きれば、原発のために手に入れた交付金などとるに足りない、役に立たないものであることが分かるはず。 しかし、事故が起ってからでは手遅れである。
12			<ol style="list-style-type: none"> 1. プルトニウム・ウラン混合燃料使用の危険性について 2. 使用済み燃料の処分について
13			<ol style="list-style-type: none"> 1. プルトニウム利用計画には問題が多い。 2. プルトニウム利用の危険性 3. プルサーマルは資源の有効利用にならない。 4. プルサーマルの危険性 5. プルサーマルの経済性 6. 放射性廃棄物についての問題点
14			<p>国連開発機構が提唱している、「人間の安全保障」の確立を目指し運動している、フォーラム「平和・人権・環境」しまねの立場にて、島根でのプルサーマル導入計画に対して反対の表明をしたい。</p> <p>そもそも、「核と人類は共存しえない」と言われる中で、現在よりも一層制御が困難であり、われわれの知識にはない危険が潜んでいる恐れのあるプルトニウムを、大量に蓄積されたからとの理由にて現段階での使用は決してすべきではない。</p> <p>ましてや、プルサーマルの使用済み燃料の処理も未確定とのこと、今現在エネルギーを大量に使用している我々の「負の遺産」を子・孫・子孫に残すべきでない。</p>